

オセアニア視察報告＜３＞

視 察 項 目	ウーロンゴン市・市議会表敬訪問
視 察 日 時	2024年11月4日（月） 正午～午後1時30分
視 察 先 名	ウーロンゴン市役所
説 明 者	タニア・ブラウン 市長他
担 当	橋本 勝

【はじめに】

本市とウーロンゴン市は昭和63年5月から姉妹都市提携を結んでいる。港湾都市、工業都市という特徴を持つ両市がアジア、太平洋地域の新たな都市交流を求めて交流が始まった。ウーロンゴン市はオーストラリアの主要都市であるシドニーから電車で約1時間半（約80km）に位置する港湾都市。石炭採掘と鉄鋼業で発展した街であり、現在も臨海部にはオーストラリア最大の製鉄会社、ブルースコープ社の主要工場が立地している。市内には130kmを超える自転車道が整備されており、他にもマウンテンバイクパークなどの施設も設置され、サイクリングが盛んな都市となっている。世界自転車連合（UCI）から認定されている自転車都市としても有名である。（UCI 認定の自転車都市は世界で20都市）また、国内有数のウーロンゴン大学が立地する学園都市であるとともに、ウーロンゴン植物園、ケイラ山など様々なアクティビティスポットを有する観光都市ともなっている。

近年の交流としては川崎信用金庫に協力をいただいている、川崎ジュニア文化賞において大賞受賞者がウーロンゴン市へ親善訪問を行っており、コロナ禍を経て令和4年からはオンライン交流会が実施されている。本年市制100周年を迎えた際には、ゴードン・ブラッドベリー市長（当時）から祝賀のメッセージ動画をいただいている。また、川崎市立川崎高校附属中学校の3年生が令和5年9月に、ウーロンゴン市のスミス・ヒル高校とのオンライン交流事業を行うなど、様々な交流事業が行われている。（以上、本市ホームページよりウーロンゴン市の紹介内容を一部

抜粋)【ウーロンゴン市と本市・市議会との関係について】

○昭和63年

- ・ 4月 フランク・N・アーケルウーロンゴン市長が本市・市議会を訪問。姉妹都市提携の予備会議が開催される。
- ・ 5月 伊藤三郎市長、小島恵一議長がウーロンゴン市を訪問。姉妹都市提携の盟約書を締結。
- ・ 8月 兼次吉雄副議長を始め議会訪問団がウーロンゴン市を訪問。

○平成2年

- ・ 4月 議員海外視察団がウーロンゴン市を訪問。

○平成4年

- ・ この年から原則毎年、川崎ジュニア文化賞の大賞受賞者がウーロンゴン市を親善訪問。(令和2年に休止)

○平成5年

- ・ 5月 姉妹都市提携5周年。高橋清市長、野村敏行議長がウーロンゴン市訪問。太鼓橋・東屋を寄贈。盟約書を締結。
- ・ 11月 デイヴィット・キャンベル ウーロンゴン市長が本市を訪問。(議長等が出席)
- ・ この年から原則毎年、ウーロンゴン大学で日本語を学ぶ学生を対象とする川崎研修会を開催。(令和元年休止)

○平成10年

- ・ 5月 姉妹都市提携10周年。キャンベルウーロンゴン市長が本市を訪問。(議長等が出席) 国際交流センターにて寄贈タイル壁画の除幕式を実施。
- ・ 11月 高橋市長、原修一議長がウーロンゴン市を訪問。姉妹都市交流計画書を締結。

○平成15年

- ・ 11月 佐藤征一郎市民文化大使、佐藤忠副議長が日豪姉妹都市40周年記念プログラムに参加。ウーロンゴン市を訪問。

○平成20年

- ・ 3月 姉妹都市提携20周年。ウーロンゴン市代表団が本市を

訪問。(議長等が出席)

- ・ 5 月 阿部孝夫市長、鏑木茂哉議長がウーロンゴン市を訪問。能舞台一式を寄贈。姉妹都市交流計画書を締結。

○平成30年

- ・ 7 月 姉妹都市提携30周年。福田紀彦市長、松原成文議長がウーロンゴン市を訪問。ウーロンゴン大学、スミス・ヒル高校等を視察。友好協力関係の確認書を締結。
- ・ 10月 ゴードン・ブラッドベリー市長が本市を訪問。議会主催の昼食会を実施。

○令和4年

- ・ 10月 川崎ジュニア文化賞の大賞受賞者とウーロンゴン市の小学生とオンライン交流会を実施。

○令和5年

- ・ 2月、9月、11月
川崎市立川崎高校附属中がウーロンゴン市のスミス・ヒル高校とオンライン交流会を実施。
- ・ 1～3月
カリタス女子中高の生徒がウーロンゴン市に短期留学。
かわさき国際友好使節としてウーロンゴン市長を表敬訪問。
- ・ 10月 川崎ジュニア文化賞の大賞受賞者とタニア・ブラウンウーロンゴン副市長とのオンライン交流会を実施。

○令和6年

- ・ 10月 川崎ジュニア文化賞の大賞受賞者とタニア・ブラウンウーロンゴン市長及びイラワラ・グラマースクールのオンライン交流会を実施。
- ・ 11月 川崎市議会議員オセアニア視察団がウーロンゴン市を訪問。

【タニア・ブラウン市長からの歓迎の挨拶】（要約）

こんにちは。今日ウーロンゴンの名で知られるこの地は、元々ダラワルの人々が居住し、今も伝統の守り人であり続ける土地です。アボニジアの伝統は何万年も前に遡ります。世界最古であり、今も継続する文化であり、私たちのアイデンティティの重要な部分となっています。ダラワルカントリーの伝統の守り人に敬意と謝意を表します。また、過去・現在の長老たちに敬意を表します。

川崎市からお越し下さった友人の皆様を心からお迎えして光栄です。ウーロンゴン市への訪問を率いて下さった浅野文直団長、堀添健副団長、ありがとうございます。また、ビンダ・キャンベル副市長、ありがとうございます。

1988年以来、川崎とウーロンゴンは緊密な関係を築いてきました。それは将来へも続いていくものと確信しております。長年にわたり文化、教育の交流が中心となってきました。姉妹都市関係の核とも言える川崎ジュニア文化賞は川崎信用金庫の皆様のご支援のおかげで過去33年間、開催されてきました。両市の子どもたちが繋がり、互いに尊重し合い理解し合う機会を与えてくれています。先日も賞が授与されましたが、受賞した皆さんたちの作文や絵画の力量に感銘を受けました。そこに飾ってありますが、誇らしげな川崎工場夜景の絵は、私たちの街の風景と重なります。

また、産業やガス排出、まちづくり、環境政策に関わる情報やアイデアの交流といった、より広範な交流も可能です。だからこそ皆様の訪問を大歓迎します。多くの日本企業がすでにウーロンゴンと密接な関係、そして影響力を持っています。例えば、今日皆様がいらっしゃいました、私たちの港、ポートケンブラ、ニューサウスウェールズ州は最大の自動車輸入港で大量の自動車が荷揚げされています。NEC オーストラリアは、ウーロンゴンに企業オフィスを開設し、市にとっては重要な雇用主となっています。

将来、川崎市とウーロンゴン市が両市の地域経済振興のために協力し合い、互いの市における企業投資や活動に奨励していく機会があること

を期待しています。ありがとうございました。（挨拶の後、ウーロンゴン市の紹介動画拝聴）

【浅野団長からの挨拶と謝辞】（要約）

ブラウン市長をはじめ多くの皆様に表敬訪問をお受けいただき、本当にありがとうございます。先程、港を見せて頂きましたが、川崎市も港と海と川と山があり本当に似たような環境だと思います。川崎市は155万人という人口の中に、外国人は約5万人、オーストラリアの方々に比べたら非常に少ない数ではありますが、日本人は外国の方々との生活に慣れていないので、まさに皆様から色々と学ばせていただきたいと思います。

川崎市の港も以前は重工業港として栄えておりましたが、今は自動車の輸出入を含めた総合商業港として大きく変わってきておりまして、特に冷凍冷蔵倉庫群は日本で最大になっています。そうしたことから水素だけでなく手法を学びながら、川崎の港の発展に繋げていきたいと思っています。

日本は今、少子高齢化という時代に突入しております。そしてオーストラリアと違い資源の少ない国です。ですから今後、新しいテクノロジー、または資源の輸入という点で、オーストラリアの東側との付き合いはなくてはならない状況です。川崎市は最先端のエネルギー、医療、こうした分野で少子高齢化に負けない都市を目指していますので、今後ともご指導をいただきたく存じます。

ウーロンゴン市とは姉妹提携36年ほどになりますが、今日は大学生にきていただいていますけども、川崎市にある専修大学にも受け入れをしてみましたし、ジュニア文化賞も交流事業の一つであります。こうした人的交流を進めながら両市にとって素晴らしい形を積み上げていきたいと思っていますので、ぜひ、来年はブラウン市長に受賞式で川崎市にお越しをいただきたいと存じます。最後に両市の更なる発展、友好が深まることと同時に、ご参加皆様のご健勝を祈念して、お礼の挨拶とさせていただきます。（この後、市長と団長による記念品の交換が行われる。その後、写真撮影から昼食のもてなしを受ける）

【主な質疑・応答について】

Q 1 : ウーロンゴン市議会の定数は。

A 1 : 13名。

Q 2 : 議員任期は。

A 2 : 4年。

Q 3 : 議員報酬は。

A 3 : 年間3万ドル。小規模都市では5千ドル程度ではないか。

Q 4 : 選挙について。

A 4 : 市長は直接個人名で投票、選出される。議員は、個人名及び所属政党名でも可となる。(我が国の参議院全国比例区と同様と考えられる)

Q 5 : 議員の兼職は。

A 5 : 市長は専業。議員は兼職可で副市長も議員である。

Q 6 : 議会の開催状況は。

A 6 : 月曜日の20時が定例となっている。(兼業の影響と考えられる) 休日の開催はなし。

Q 7 : 主権者教育について。

A 7 : 小学生や高校生との意見交換会を開催。

Q 8 : 市長は政党に属しているか。

A 8 : 労働党に属している。

Q 9 : 市議会の構成は。

A 9 : 労働党が第1党。他は自由党、みどりの党、無所属。

Q 1 0 : 議案の提出方法は。

A 1 0 : 市長が提出するのが一般的。議員と行政職員とのチームによる提出もある。また、議員 1 名による提出も可能。

【総括】

人口 2 2 万人のウーロンゴン市だが、規模にすれば本市の行政区とほぼ同等の人口となっている。本市多摩区が人口約 2 2 万 7 千人に対し、議員定数 9 名。単純比較すると若干多くなっている。人口によって定数を定める我が国と、州の自治法によって定めているオーストラリアでは根拠に違いがある。因みに、ウーロンゴン市が属するニューサウスウェールズ州では 5 名以上、1 5 名以下と定めている。なお、オーストラリアでは投票は義務となっており棄権は罰金を科されるところのことだが、ガイドや通訳の方にそのような事例を承知しているかと伺ったところ、自分の身の回りでは聞いたことがないとのことであった。

議会運営において市長は議長を兼ねるとのことで、我が国の地方議会の 2 元代表制とは性質が異なるものと思われる。市長と議員の選挙は同時執行されるようだが、市長は政党所属で立候補するものと思われ、議員選挙においても選出される市長が所属する政党の候補が、相乗効果により当選しやすい現象が起こるものと思われる。そのようなことから、当選した市長が議会においても多数派を構成しやすくなることに繋がっていると想像できる。ウーロンゴン市は市長、議会第 1 党とも労働党なので、議案が否決される可能性は極めて低いと考えられる。加えて市長は議決権を有しており、かつ採決時に 2 票行使できるとのことからも、長と議会のバランスが均衡しているとは思われない。議員選挙では我が国の参議院全国比例区のような制度からも無所属候補は当選しづらいものと思われたが、実際には現在 2 名が無所属だと聞き、市民の声や思いは政党以外にも一定向けられていることを理解した。本市のような指定都市は全国的にも、政党所属議員が多数を占めている。議会運営においては政党・会派の考えによる調整が行われることもままあるが、メリット・デメリット両面があると指摘されている。特にスピード感が求められる場合への対応が後手に回ること

があり、市民ニーズを的確に捉えることが出来ているか問われることもある。そういった声や指摘も受け止めつつ、無論、議会基本条例に則って、持続可能な社会、活力ある経済、安全で安心できる地域社会を構築していくことに全力で取り組むと同時に、福祉、子育て、教育等、幅広い分野に対する知見を深めるうえで有意義な視察であったことを申し添え総括とする。



【記念品を交換するタニア・ブラウン市長と浅野団長】



【タニア・ブラウン市長と名刺を手交する堀添副団長】



【ウーロンゴン市長・副市長・地元学生と視察団】



【ジュニア文化賞受賞作品を囲むタニア・ブラウン市長と浅野団長】